

登録コード	L2630400	開講年度	2026				
担当教員	浅井 航洋			副担当			
授業科目	日本文学特論IV						
英文授業名	Japanese Literature: Specialized Study IV						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・2時限
講義室	人文第5講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以降カリキュラム対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			⇔	日本近代文学がどのように近代という時代と関わったのかについて理解し、それを他者に説明することができる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリキュラム対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身につけている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	近代日本の新聞小説について、基礎的な知識を身につけ、その特徴について他者に説明することができる。		
	【2023年度以降カリキュラム対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身につけている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			⇔	先行研究や同時代資料の扱い方を把握し、自分で調査して読み解いて作品読解に応用することができる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	近代日本において、新聞は社会的影響力の大きいメディアだった。新聞に連載される小説は、いわゆる近代文学史において名作と呼ばれる、芸術性の高い小説と比べて多くの読者を持っていた。しかしそうした小説は、発表当時は多くの人に読まれたにもかかわらず、時代と共に忘れ去られてしまったものが多い。その理由として、時代の文脈が読者に共有されなくなったことが挙げられる。時代背景を踏まえてそれらの小説を読み直すことで、当時どのような魅力を持っていたのかを検討していきたい。						
授業計画							
成績評価の方法	授業コメント（合計30％）、授業期間中の課題（合計35％）、期末レポート（35％）						
成績評価の基準	十分に積極的な態度で授業に参加し、先行研究と同時代資料を博覧精査して作品について説得的で深い読解を提示する課題やレポートが提出されていれば「卓越している」。積極的な態度で授業に参加し、先行研究や同時代資料を十分に調査して作品について説得的な読解を提示する課題やレポートが提出されていれば「かなり上にある」、妥当な態度で授業に参加し、先行研究や同時代資料についてある程度調査して作品について妥当な読解を提示する課題やレポートが提出できていれば「やや上にある」、授業に参加し、先行研究や同時代資料に触れながら作品についてある程度の理解を示した課題やレポートが提出できていれば「水準にある」。						
事前事後学習の内容	配布した授業資料で引用した一次資料について、授業後に自分で読み直して解釈してください。その際、意味のとれない箇所や知らない言葉があれば辞書を引いて調べるようにしましょう。						
履修上の注意	講義内容を聞き取り、自分なりに整理してメモやノートを取って下さい。漫然と聞いているだけでは、頭に入りません。知識と想像力を総動員して主体的に取り組んで下さい。 生成AIの使用はブレインストーミングや文章校正・誤字脱字のチェックなど補助的な用途に限り認めます。主張や内容に関わる部分を生成AIに執筆させたものは不可とします。						
質問、相談への対応	木曜のお昼休み（12時10分～13時）をオフィスアワーとしますので、希望される方はメールで予約して下さい。 asai@shinshu-u.ac.jp						
教科書	購入不要。プリントを配布します。						
参考書	本田康雄『新聞小説の誕生』平凡社、1998年 関肇『新聞小説の時代』新曜社、2007年						